

# おてだま

OTEDAMA CLUB IN JAPAN



新居浜市金子小学校のみなさんのお手玉遊びの絵です

特集1 「第14回全国お手玉遊び岐阜・美濃加茂大会」報告 ……2~4

美濃加茂お手玉の会 事務局 渡辺久司さん

NHK「発見ふるさとの宝」放映 ……4

「フルウェー日本文化祭り2005」

参加報告 ……5

特集2 「お手玉遊び兵庫県大会」報告 ……6

神戸お手玉の会 事務局 北村義雄さん

連載 各地のお手玉歌 ……7

・第3回目 兵庫県養父市 『石なんじ』の唄

本部からのお知らせ ……8

- ・お手玉グッズ販売の一時休止
- ・支部長会議報告
- ・新支部の紹介

特集3 「第15回全国お手玉遊び愛媛・新居浜大会」のお知らせ ……8

# 第14回 全国お手玉遊び 岐阜・美濃加茂大会

～なつかしい文化から、新しい出会いを～



開会式の様子  
美濃加茂市中央体育館  
(フニヤチゆうたい)



個人戦 小学生の部  
「今日の優勝は、私よ！」  
「いや僕だあ！」  
闘争全開。

「なつかしい文化から、あたらしい出会いを！」をテーマに「第14回全国お手玉遊び岐阜・美濃加茂大会」は平成17年9月4日(日)美濃加茂市中央体育館で開催されました。大会は次代への文化の継承を目指し、子供たちの参加、家族の絆やふれあいを大切にする心を育てるため、家族チームの参加、日本の文化を紹介するため、外国人が参加しやすい大会を目標に行われました。

全国22都道府県より2千人の皆さんが、北は青森県、南は沖縄県まで、また在日のご家族や幅広い世代の方々の参加などで熱気ある大会を開くことが出来ました。

競技は参加者の技能レベルが年々向上し各種目、上位者が拮抗してなかなか決着がつかないことがありました。一般の部の個人戦では年配の方々が入賞されていますが団体戦一般の部では学生チームが健闘し入賞しています。

来年15回大会は新居浜市で開催します。みなさん、ぜひご参加ください。

お待ちしております。

## 全国お手玉遊び岐阜・美濃加茂大会を終えて

美濃加茂お手玉の会事務局  
渡辺 久司

「第14回全国お手玉遊び岐阜・美濃加茂大会」は、全国22の都道府県から2千人を超える盛大な開催ができましたことを、まずもって厚くお礼申し上げます。

お手玉愛好家の皆さんの、お手玉に対する熱意とこの全国大会にかける思いを改めて痛感いたしました。

### お手玉との出会い

昭和の代表的な遊びの文化「お手玉遊び」に全国大会があることを知りました。

この大会をまずはこの目で、「第11回熊本大会」を観察するため急ぎ熊本入りし、日本のお手玉の会 藤田会長をはじめ本部の皆さんに大会誘致についてのご相談をさせていただきました。

「お手玉遊び」の大会とは思えないほど、その規模の大きさに驚かせられるとともに、本部の皆さんとお話する中で、大会誘致の実現には大きな問題があることが判明しました。美濃加茂市にはお手玉の活動組織(支部)もなく、お手玉遊びの文化や大会を開催する土壌も無いという、今から思えば無謀で大変失礼な相談をしたような気がします。

大きな不安を抱えながら、お手玉遊びの普及と活動組織の立ち上げ、全国大会の開催に向けた長い取り組みが始まりました。

### 「美濃加茂お手玉の会」の誕生

早速、支部を立ち上げようと試みましたが何から取り掛かって良いのかも分からず、取りあえずはお手玉の魅力を少しでも多くの方に知ってもらうことから、「お手玉普及講

演会」や「お手玉教室」、「出前講座」などを開催しました。

興味を示していただいたのは60歳から70歳代の女性が多く、「子どものはよくお手玉で遊んだわ！」っと懐かしそうでした。

しかし、「ミニ競技会をやってみよう」と逆めると、競争とか大会とかを嫌う世代なのか、ほとんどの方が尻込みされてしまい無理矢理お願いするような始末で、「全国大会の開催は至難の技」と不安はつのるばかりでした。

それでも、講演会等に参加いただいた方を中心に、福祉関係団体やボランティア関係団体の皆さんに相談を持ち掛けて、やっとの思いで会員募集までこぎつけ、平成16年2月に会員数50名の「美濃加茂お手玉の会」が発足し、日本のお手玉の会の34番目の支部が美濃加茂市に誕生しました。

### 全国大会までの道のり

支部発足後、本部に「第14回全国お手玉遊び岐阜・美濃加茂大会」の開催申請を行い、晴れて当地区での全国大会開催が正式に決定しました。

その後、お手玉の会会員の皆さんが中心となって小学校のクラブ活動や高齢者のふれあいサロン、各種イベント会場等に出掛け、お手玉遊びの効果やお手玉の作り方、遊び方を指導しながら、お手玉遊びの競技人口拡大と全国大会開催のPRに励む毎日でした。

そして、全国大会開催一年前の7月に「第1回市民お手玉遊び美濃加茂大会」を計画。東海地方では初のお手玉遊び大会ということで、新聞やラジオ、テレビなどで取り上げていただき、マスコミ受けは大変良いという印象を受けたのですが、参加者がなかなか集まらず、参加依頼に奔走することもありました。

その甲斐あって大会当日は、参加チーム数40チーム、約4百人という大勢の方に参加



をいただき、和やかな雰囲気の中で大変な盛り上がりを見せた大会となり、規模は異なるものの全国大会の開催に向けて自信につながる大会となりました。

今回の大会は、「交流」という大きなキーワードのもと「なつかしい文化から、あたらしい出会いを」を大会テーマに掲げて、地域間交流、世代間交流、国際交流という三つの「交流」を重点目標として大会の企画を進めてきました。

また、本部からご指導いただいた大会審判員の技量向上と、地域の個性を活かした大会を目指すことも目標のひとつでした。大会開催までに一番気を揉んだことは、大会の案内状を全国に発送してから締切日までの間でした。

例年のことではあるようですが、締切日が近づいてもなかなか参加申込がなく、果たして今年の大会はできるのだろうか？と心配は募るばかりで、眠れぬ夜が続きました。

しかし、最終的には予定していた参加チーム数が確保でき、ほっと胸をなで下ろし大会準備に集中することができました。

**わあーいよよ本番ー！**

9月3日（土）には、日本昭和村でのプレ大会と前夜祭が開催されました。

前夜祭では、昨年の神戸大会の前夜祭で好評だった各支部のアトラクションを募集したところ、予想を上回る申込みがあり、タイムスケジュールの管理が最大の課題となりました。

9月4日（日）の本大会は、台風が近づいてきた曇り空のもとで開催されました。地域の個性や魅力を紹介するために企画した、保育園児や高校生、成人団体などのアトラクションも今回の大会を盛り上げるひとつの要素でした。

団体戦の「小学生の部」で過去最多の22

チームの参加を得られたことや、外国人チーム、学生チームの参加などで、今回の大会の三つの「交流」という重点目標が達成できたのではと思っています。残念なことは、地元参加選手がほとんど上位に食い込むことができなかったことです。

長い期間をお手玉の普及活動に費やし、競技人口や技量も向上したと思っていまいたが、それ以上に全国大会のレベルが年々向上しており、団体戦では予選リーグ通過するのがやっとという状況でした。

閉会式では、次回、第15回大会の開催地である愛媛県新居浜市の「日本のお手玉の会」に無事大会旗を引き継ぐことができました。

5年ぶりにお手玉大会発祥の地、新居浜で開催される全国大会ということで、全国各支部のお手玉名人の皆さんもその腕に更に磨きをかけて大会に臨まれることと思います。

**おわりに**

日本の古き良き伝承文化「お手玉遊び」は、日本人が忘れかけていた人と人との心のつながりや、心の底からあふれる笑顔を取り戻してくれる遊びです。

今回のお手玉遊びの全国大会を通して、競技に出場された選手の皆さんや大会運営に携わった皆さんの間で、新しい出会いと素晴らしい笑顔が生まれ、皆さんの心がお手玉をゆるようにひとつの輪につながったのではないかと思います。

美濃加茂お手玉の会としても、今後「お手玉」の魅力を更に多くの方に伝えるが、日本の伝承文化「お手玉遊び」が「競技お手玉」という形で、この地域の新しい文化として根付くことを願いながら活動を続けていきたいと思えます。

新居浜大会で皆さんと再会できることを楽しみにしております。



前夜祭会場のシティホテル 美濃加茂 明日の競技のためのパワーをみんなからもらいます！



新しく設立されたお手玉同好会「純酒お手玉フレンド」のみなさんによる楽しいゼン・ドン・ヤ！



前夜祭では、個性あるステージ発表がたくさんありました。写真はいつも元気な福玉会のみなさん！

**第14回全国お手玉遊び岐阜・美濃加茂大会成績結果**

**大会メモ**

**フシ大会 学生交流大会**

優勝	新居浜工業高等専門学校	愛媛県新居浜市
準優勝	奈良お手玉の会 たまゆら 学生チーム	奈良県奈良市
三位	美濃加茂高等学校ドリカム	岐阜県美濃加茂市

**フシ大会 家族交流大会**

優勝	たまゆら	奈良県奈良市
準優勝	ハルちゃんチーム	岐阜県美濃加茂市
三位	河口チーム	宮崎県西臼杵郡

【本大会】  
選手・見学・スタッフ  
青森県から沖縄まで約2,000人  
団体戦 一般の部 84チーム  
小学生の部 22チーム  
観人戦 一般の部 262人  
小学生の部 81人

【プレ大会】  
選手・見学 約230人  
学生交流大会 4チーム  
家族交流大会 11チーム

## 個人戦

### 一般の部

#### ①片手2個ゆり

優勝	福永行洋	奈良県奈良市
準優勝	老田学海	奈良県奈良市
三位	鬼嶋憲治	愛媛県四国中央

#### ②両手3個ゆり

優勝	老田学海	奈良県奈良市
準優勝	藤田智成	愛媛県新居浜市
三位	山田耕平	愛媛県四国中央市

#### ③ジャグリング

優勝	坂本富子	駒ヶ根市
準優勝	久門絃子	愛媛県新居浜市
三位	松葉芳	岐阜県本巣市

#### ④両手4個ゆり

優勝	藤田智成	愛媛県新居浜市
準優勝	久門絃子	愛媛県新居浜市
三位	宮崎安夫	神奈川県横浜市



団体戦の始まりです！  
「よーい！始めっ！」

### 小学生の部

#### ①両手2個ゆり

優勝	林田めぐみ	福岡県前原市
準優勝	宮本美沙	福岡県前原市
三位	田中安紀子	福岡県前原市

#### ②片手2個ゆり

優勝	宮本美沙	福岡県前原市
準優勝	水田菜美	兵庫県美父市
三位	岩見ひろか	福岡県前原市

#### ③ジャグリング

優勝	吉瀬涼那	福岡県前原市
準優勝	岩見ひろか	福岡県前原市
三位	柳沢佑介	長野県上田市

#### ④両手3個ゆり

優勝	柳沢佑介	長野県上田市
準優勝	岩見ひろか	福岡県前原市
三位	清水圭一郎	岐阜県美濃加茂市



個人戦！  
みなさんの真剣な表情。『負けるものか！』

## 団体戦

### 一般の部

優勝	チーム抗議する(新居浜工業高等専門学校)	愛媛県新居浜市
準優勝	奈良お手玉の会 たまゆう 学生チーム	奈良県奈良市
三位	尾道フレンドC	広島県尾道市

### 小学生の部

優勝	みなかぜキッズ	福岡県前原市
準優勝	四国のおてだまっ子	愛媛県四国中央市
三位	山之上キッズA	岐阜県美濃加茂市

## お手玉演舞競演会

最優秀賞	ひかり	愛媛県四国中央市
優秀賞	ハッピーサンバ	愛媛県新居浜市
敢闘賞	美濃加茂ロマンス	岐阜県美濃加茂市



『全国各地の視聴者からの投稿をもとに、その人達  
が大切と思ってお宝の意味を再発見し、忘れが  
ちな日本人の暮らしや心、地域文化や歴史を思いお  
こす番組です。スタジオには、架空の雑誌「ふるさ  
との宝」編集部を想定し、日本各地の宝のVTRを  
紹介します。それを見た編集部員であるゲストの方  
にキャッチフレーズを考えていただき、ふるさとの  
皆さんの思いを後世に残そうと考える番組です』  
新居浜市内の施設や、会員のみなさんやスタッフ  
のみなさまのご協力により制作され、11月に放映さ  
れました。いただきましたプレートは、大切に保管  
させていただきます。

NIKK  
『発見 ふるさとの宝』

# ノルウェー日本文化祭り2005に参加しました!

～オスロ市から感謝状をいただきました～



フィヨルドへ行く途中の電車からの美しい景色

## ノルウェー日本文化祭り2005に参加しました!

北欧お手玉遠征記

大牟田お手玉の会 杉村 治 男さん  
美知子さん

出発前日、開演直前の全日堂ホテルに宿泊したので、開演に間に合ったのは集合時間より若干早めでした。しばらく待つうちに、本部のメンバーが賑々しく二到着。みなさんとは久しぶりの再会でしたが、昨日の今日みたいな夜会でした。備太より北にあるノルウェー、首都オスロはさぞかし寒かろうと覚悟していたところ、暖かい毎日で快適に過ごせたことは何よりでした。さて、どこで演技をするのかと思っていたら、バスは街中の広場に到着。10センチ四方位の石畳を敷き詰めた広場は、遠く雨のローマの石畳を思い出させました。

広場では、神輿の青年たちが太鼓の響きも高らかに、エイサーを披露、あわせて獅子舞の乱舞に観客も盛り上がりつつある。次の出し物が日本の童謡の合唱、音響効果がいいので、見る間に観客が散り始める。その間に、わがお手玉の会が登場、一通りお手玉の技を披露した後、観客との間にお手玉を飛ばし、大人から子どもまでお手玉を受けた後、投げ返したり、散り始めていた観客の足を引き止め、交流の輪に引き込んでいったのは、さすがお手玉でした。

お手玉の交流には言葉はいらない。空間に飛びかうお手玉と笑顔があればそれだけで充分でした。

そのあと訪問した老人福祉施設でも、お手玉演技を披露のあと、「老人相手にお手玉を投げては投げ返す、その簡単な仕事の繰り返しの中で、年寄いたるに笑顔があふれ、手が動き足が動き、体全体が動き出すなど、効果抜群のりハビリティ・シオン運動を展開し、施設のフロアに活気がみなぎった嬉しいひとときでした。

唯一残念だったのは、オスロ・コンサートホールでのステージで、演技の披露が出来なかったことでした。

しかし、行く先々でひよいとお手玉を出し、子どもを、そしてまわりの大人たちをも笑顔のうずきに巻き込む、このお手玉の素晴らしい魅力に、今更ながら驚きを覚えるこの頃です。

ノルウェー建国100周年記念イベントが、首都オスロで開催されました。会長以下、愛媛県・広島県・京都府・奈良県・東京都・福岡県のもも府県より参加、合計17名で、日本文化「お手玉」の紹介を行いました。

参加人数など、心配されておりましたが、会場は日本文化に興味のある方々がたくさん集まりました。布や柄の美しい、素朴な遊びは、世界の多くの人々に認められ親しまれました。オスロ市から、日本の伝統文化「お手玉」の紹介に対して感謝の気持ちと交流が世界平和へとつながっていくことを願って、感謝状をいただきました。

また、ノルウェー大使が香川県出身の青賀文子さんとお話しする一方で、特にお手玉遊びに興味を寄せられていました。会より絵本「お手玉」と英語版「TORIYAMA」をプレゼントさせていただきました。

会場では、お手玉の展示・作り方・デモンストレーション(オスロ広場にて)を行い、今年の全国大会で優秀賞に輝きました「ハッピーサンバ」のメンバーが演舞♪マツケンサンバ♪を披露、続いて参加者全員で童謡にあわせてお手玉を披露しました。

翌日のデイケアセンター(オスロ市内)では、高齢者とお手玉を使って交流をし、言葉を超えて体全体で楽しんでいただきました。

今回、日本からは、お手玉の他、水引き・七宝焼き・神楽舞踊エーサー・生け花・茶道・お茶・さももの着付け・日本舞踊など、約210名での参加でした。

参加された会員のみならずから報告や感想のお手紙がとどいており、感謝の気持ちでいっぱいです。



ノルウェー国営デイケアセンターでお手玉交流

## ～ See You Again Grandmother! ～

田村 節子 さん

今回の旅行、ワイロルドコースは、言葉に言い尽くすことの出来ない程の素晴らしい景色と、他のサークルの人達との人情味溢れる楽しいものでした。中でもソングファイヨルド地区スタイルハイムホテルでの1泊は、天窓の中のホテルみたいで、また、中の調度品の素晴らしいは天下の一品のものばかりでした。そこで多摩児童の会の皆さんと一緒に歌った一夜の光景は、一生の思い出になりそうです。

私は日頃、村のデイサービスにボランティアをしていてる者として、今回の訪問先は、スウェーデンでの思いを感じるままに書きたいと思えます。

日本の暗いイメージとはほど遠く、明るくて、素敵な雰囲気です。みんなが主役、という言葉がぴったりです。

第1に、みなさん思いの時の時を持ってもらえる事、第2に、家内のカラフルさといましようか? マイホームを広くしたという表現が合う本心に素晴らしい空間でした。

そして私が感じた一番の締めつけは、みなさんの服装です。自由に自分に合ったおしゃれをさせていて、顔まで生き生きと明るく感じました。(日本では年齢を重ねるとこの色を着て、というようにない)ろがあります。私も見習いたいと思いました。

その中でお手玉は盛り上がりました。中には上手にされる方もおられ、本心にこちらまで嬉しくなり、元気をもらいました。お別れの時「グッドバイ、グッドバイ」と言う、口の中にキャンディーを入れ替えてくださり、甘い握手、涙が出ました。(日本だったらキャンディーを持っていくなんて、きつと取り上げられるでしょうね) 近くだったから、またお会いしたい方はかりでした。



ノルウェー日本文化祭りの会場(ノーベル平和センター)お手玉の展示コーナーは、終始大人気でした。

## ノルウェー 日本文化 祭り参加の旅

久保 路子さん

オスロ・ストラックホルム・コペンハーゲン、異国への旅でいろいろな出会いの中、オスロでの日本文化祭りにお手玉展示場での「コマ」がたくさんのお手玉展示を興味深そうに見に来られた中に、感じの良い母娘連れが足をとめて両手と個ゆりをはじめました。

「こちがかった娘さん、だんだん上手にゆりだしました。最初からお手玉を大事そうに扱っていた様子に、帰っても練習してほしいと思いい、お手玉をプレゼントすると、とてもうれしそうにお母さんに何かしら話していました。

すると、お母さんが上手な日本語で「バースデーとクリスマスが一緒にきたみたい、あなたはサンタクロースみたいと言っています」と話してくれました。

お手玉がきっかけで、小さなことにも感動する素敵な娘さんの優しい気持ち伝わってきて、私の方が感激してしまいました。一緒に写真を撮り、あったかい気持ちで見送りしました。

たかがお手玉、さすがお手玉、実感しました。



# お手玉遊び「兵庫県大会」を終えて

お手玉遊び兵庫県連絡会事務局長 北村 義雄

まず持って全国大会が成功裏に終わりました。神戸で全国大会を兵庫県で開催させていただき、開催準備から大会日まで運営上のわずかしさは相当なものでしたが、この度の美濃加茂大会ではスケジュール通り、様々なアトラクションを取り入れ私たちを楽しませていただき、競技もスムーズに運営できていたと感心し参加させて頂きました。

さて、兵庫県内には8支部があり、各地域でお手玉遊びが普及できますよう活動しています。

昨年は、神戸で全国大会を行いました。全国的にさらなる普及を図るため、今年度は兵庫県北部の但馬地域で県大会を行いました。来年度は兵庫県南部の阪神地域で県大会を行うべく現在準備中です。

## 行政の支援

県大会では、兵庫県但馬県民局に資金面の援助、養父市に会場の借用や地域でのPRにご支援を頂き開催できました。

また、兵庫県では知事様のお手玉遊びへの関心度が高く、大会当日わざわざ会場にお越しいただきご挨拶をいただきました。

養父市長様や但馬県民局長様にもお越しいただき花を添えていただき感謝した次第です。これもお手玉遊びの魅力がもたらしたものと改めて思いを致した次第です。

## 日本のお手玉の会の支援

この大会には日本のお手玉の会の本部から藤田会長様始め多くの役員様にもお越しいただきました。

事前準備の段階では事務局の皆様にも大会資料の提供やお手玉の会の広報誌に県大会の記事を載せて頂くなど一角ならぬお世話になりました。

翌日は指導者養成講習会を開催し、多くの方に受講していただきました。

## 大会の運営

今回の大会の運営は地元のお手玉の会を中心に、豊岡地区のお手玉の会、たじま市A女性会、日高玉ゆりの会の4支部が精力的に行って頂きました。

大会プログラムの検討、司会進行の手順、審判団の手配と養成、賞品の手配などは精力的に手配することが多々あったのですが、よく理解いただき結果よく運営いただきました。

## 大会の経過

約300名ほどの方の参加者を得て行いましたが、個人戦や団体戦と全国大会と同様な基準で行いました。

私から言うのも何ですが、県下のお手玉の会のメンバーの実力が上がっており、決着を着けるのに時間がかかるようになってきました。全国大会でも個人戦で入賞する方も出てくるようになり、小学生の部においても、前夜祭で石なんご遊びを披露してくれた小学生が入賞するなど将来が楽しみです。

今回の県大会で一番感銘を受けましたのは藤田会長のメリハリの利いた表彰状の渡し方でした。昔、大相撲の時にバンアメリカンの方が大きな声で「表彰状」と読み上げておられたことを思い出してください。まさにこのように大きな声ではっきりと表彰状を渡すことが、この大会で最も印象的でした。折角の表彰ですから、このような手渡し方によってより感動が伝えられるものかと感心した次第です。

今回他府県の方から参加者もありました。年齢的なことや実力の差もあって県下の選手は惜しくも優勝を逃がした部門もありましたが、このことが発展材料となり先の全国大会で入賞した方も出てきました。



神戸兵庫県知事の挨拶

## 来年度は阪神間で県大会

先に触れましたように、来年度は阪神間で県大会を開催するための準備を進めてまいります。

神戸、但馬そして県下の仕上げの大会として阪神間で大会を行なうこととしております。

今回の「連戦各地のお手玉歌クローズアップ」のコーナーは、「お手玉遊び兵庫県大会」の開催されました養父市に伝わる、日本で一番古いお手玉「石なんご」や唄について、北村さんよりいただきました。「石なんご遊び披露」と「石なんご遊びのルールと検定」をあわせてご紹介いたします。

## 石なんご「ひと ひとのうた」から思うこと

「石なんご遊び」は、養父市で語りつがれ、歌いつがれ、遊びつがれていました。耳でしか受けつがれなかった文句を文字に、言葉にしてみると、当時の地域の生活の特徴や方言を学ぶことができました。

日本のお手玉の会  
会長 藤田 石根



藤田会長様の挨拶

# 連載 各地のお手玉歌 クローズUP

## 石なんご遊び披露

日本のお手玉の会発行の「お手玉」にも日本最古のお手玉遊びと紹介されています。全国大会の前夜祭でも紹介させていただきました。

以下に石なんご遊びの歴史や遊び方を紹介します。

石なんごは、親指の頭くらいの小石を地面にまいて、ルールにしたがって拾いあげていく遊びで、日本では平安時代のいくつかの和歌の中にも、その名称が見られます。たとえば、平安末期の歌人である西行法師は「石なんごの たまの落ちくるほどなさに 過ぐる月日は かはりやはする」とうたっています。この歌は、石なんごが平安時代にすでに行われていたことを示しています。

この「石なんごあそび」は平安時代にすでに行われていたのですから、千数百年にわたって伝承されてきた遊びの文化だということができまます。子どもたちの文化維持力、伝承力に驚かされます。



来年度兵庫県で開催する「のじごく国体」のマスコットを囲んで



石なんご遊び

## 石なんご遊びのルールと検定

- (1) 約200個の小石を、中央にまとめて置く。
- (2) 4～5人で組をつくって、小石を中心に自分の場所を決める。
- (3) 遊び方
  - ① 中央にある小石の中から好きな石をさがして、自分の「親玉」にする。
  - ② ジャンケンで1番を決め、うすひき回り(左まわり)で試合する。
  - ③ かぞえ歌を歌いながら、親玉を空中にふり上げ、1個から順に石を取っていく。
  - ④ 途中で失敗したら次の人と交代する。もし、10個まで石が取れたら、続いて1個から始める。
  - ⑤ 中央の取り石がなくなったら、1回の遊びは終わる。
  - ⑥ 自分の取り石の合計の数で、勝ち負けが決まる。多い順に1位、2位、3位となる。
  - ⑦ 2回戦は、取り石を全部出して、多くとった人から始める。
  - ⑧ その他
    - ・試合の最後、残りの石が数に足りなくても、取ってしまう。
    - ・親玉の石は、得点の数には入れない。
    - ・石の数は2、4、6、8、10の偶数読みで数える。

## #石なんごの唄 ♪ ひとひとのうた

1、**かむかむ** **かむかむ** **せがごじや**  
「この世で広いところは、世界ですよ」

2、**ふたふた** **ふらんが** **てんきじゃ**  
「雨が降らない日は、天気がよいことだよ」

3、**みーみー** **みえんが** **やみよじや**  
「暗くて物が見えないのは、闇夜の晩だよ」

4、**よーよー** **ちひたん** **やぶひひ**  
「養蚕の盛んなところは、養父郡だよ」

「大層町蔵出し出身の上坂守国(もりくに)さんは、養蚕の神様と言われている人で、養蚕を全国へ広め、世界的にも有名」

5、**いっいっ** **いんたち** **またいっ**  
「家に帰ったら、また遊びに来てくださいわ」

6、**むーむー** **むらおが** **しほりい**  
「美方郡の村岡は、和紙のしほり染めの町だよ」

「村岡は城下町で、昔は、紙細工の町として全国的に有名であった。その材料の和紙をしほり染める独特の方法で、しほり染めして、紙の財布やたばこ入れを作っていた」

7、**なななな** **ななおの** **てんじん**  
「天神さんの発祥の地は、加賀(石川縣)の七尾ですよ」

「天神さんは、字訓の神様である音原道真が祭られている。現在、最も有名なものが、京都の北野天満宮である。その音原道真の子孫である。加賀百万石の前田の殿様の出生の地が、石川の七尾である」

8、**やーやー** **やあやあ** **あやあ**  
「八幡(京都)の八幡神宮は、とても有名ですよ」

「八幡さんは、天皇をまつる神社であり、官警社(かんべいしや)大社・中社・小社・格別社ともいう。現在でも、有名なものが、京都の八幡市の岩清水八幡宮(いわしみずはちまんぐう)である」

9、**こけいけ** **こけたり** **いたいよ**  
「つまづいてこけると、けがをして、とても痛いよ」

10、**こーこー** **こーこー** **おれたいや**  
「とっくりに入っているのは、お酒ですよ」



## 本部からのお知らせ

### 事務局移転とお手玉グッズ販売の一時休止について

この度、事務局が同じ敷地内の北側の建物へ移転することになりました。住所や電話番号につきましては、これまでと変更がありません。

移転に伴いまして、ご利用いただいております、お手玉グッズの販売・郵送を次のとおり、一時休止させていただくこととなりました。誠に申し訳ございませんが、どうぞご了承くださいませようお願いいたします。

受付・発送休止期間	平成17年11月24日(木)～平成18年1月15日(日)
受付開始日	平成18年1月10日(火)
発送開始日	平成18年1月18日(月)
	※ 発送開始日より、受付している順番に発送させていただきます。
休止グッズ	日本のお手玉の会で販売しているお手玉グッズ全商品

### 新しい支部の紹介

またまた、新しく支部が誕生いたしましたので、ご紹介させていただきます。みなさん、よろしくお祈りいたします。

第48号——尾道支部

（お手玉同好会「尾道お手玉フレンド」）

会長 平田 良幸さん

第49号 西東京市支部

ハッピーウエルカムの会

会長 鶴田 信子さん

### 全国支部長会議 報告

「第14回全国お手玉遊び岐阜・美濃加茂大会」開催前日に、全国支部長会議を開催いたしました。その会議にて「日本のお手玉の会」の今後の活動について、ご出席いただきました各支部長さまの貴重なご意見をたくさんいただき、次の事項が決定いたしましたので、ご報告いたします。

- ・全国を5～6ブロックにわけ、ブロックごとに理事を選出し広い視野で各地の意見を取り上げ、全国大会のあり方も含めて今後の運営について検討する。
- ・今後の運営については、平成18年度全国大会での支部長会議にて再度協議し決議する。



## 『第15回全国お手玉遊び 愛媛・新居浜大会』開催

大会日時：2006年8月27日(日)  
9:30～15:00

場 所：リーガロイヤルホテル新居浜

全国お手玉遊びも第1回から毎年開催し、第11回目からは県外での開催となり、それぞれ地域色のある素晴らしい内容の大会が開催されました。第15回記念大会は本部愛媛県新居浜市での開催です。これまでの各県での全国大会からたくさんの事を学びました、「お手玉遊びの原点・素朴さ・楽しさ・豊かさ」を再認識しながら、準備を進めてまいります。たくさんのお手玉ファンの方々に参加されることを心よりお待ちしております。

※参加の申し込みにつきましては、改めてご案内させていただきます。



発行・編集

日本のお手玉の会 会報編集委員会

〒792-0911 愛媛県新居浜市庄内町1-13-14

TEL/0897-36-0600・FAX/0897-36-0644

E-mail: tamachan@otedama.shikoku.ne.jp

ホームページ

http://www.shikoku.ne.jp/otedama/